

# みどりのゆび

諏訪中央病院グリーンボランティア通信 No.123号 2022年5月18日発行

## 開かれた病院の象徴 ハーブガーデン



病院長だった頃、「開かれた病院」を目指してきました。大切なことが3つあります。

### ① 時間的に開かれていること

救急患者をはじめ、どんな患者さんにとっても、24時間いつでも開かれている病院であること。

### ② 内容的に開かれていること

病気を治すことがまず大切。でも病院は、もっと多様なことができると思ったのです。

地域を健康にしようと、ほろ酔い勉強会を始めました。家にいたいというお年寄りのために、在宅ケアも始めました。助けられなくても見捨てないと考えて、緩和ケア病棟も作りました。

### ③ 空間的に開かれていること

公立の病院です。原村、諏訪市、茅野市の人達に支えてもらっている病院。その人達のために、病院が開かれていることが大事と考えました。ホスピタルコンサートをしたり、ロビーで絵画展等をしたりしてきました。

開かれた病院の象徴は、グリーンボランティアの方々が支えてくれている、ハーブガーデンです。ぼくは全国各地のたくさんの方を訪れてきましたが、これほど美しい庭はそうないと思っています。

脳卒中でリハビリ中の患者さんが、理学療法士と庭で歩く訓練等をする、リハビリのモチベーションが一気に上がります。緩和ケア病棟の末期がんの患者さんが、車椅子で庭へ出てみると、にこにことして「一度家に帰りたい」「温泉に行きたい」「うなぎを食べに行きたい」等と前向きになるのです。植物の生きる力が、患者さんに希望を与えています。不思議なパワーを持ったハーブガーデンです。

職員たちも、疲れたときにここを通るだけで元気をもらいます。昼時、グリーンボランティアの方々の輪に若いドクターが混じって、久々の家庭の味を味わう姿もありました。



病院スタッフにとっても、癒しの空間となっているのです。

開かれた病院のシンボル、ハーブガーデンは4月中旬、梅と桜が一気に咲いて、美しさを誇っています。あと少しでかれこれ30年。「不思議な庭」は成長し続けています。

美しい庭をありがとうございます。グリーンボランティアの方々に心から感謝しています。 [諏訪中央病院名誉院長 鎌田實]

\*今冬はコロナ感染拡大のため、学習会が中止になり、恒例の鎌田實先生、萩尾エリ子先生のお話等を伺う機会がありませんでしたが、今年度の第1回目通信に鎌田先生から寄稿いただきました。 イラスト/長尾いづみ

## 新しいメンバーです

☆東京から移住して12年目となりました。去年、初めてガーデンにふらりと入り、しみじみ癒されました。少しでも、ガーデンを美しく出来たら、幸せです。

[池田知枝]

☆原村に来て3年になります。園芸の事は、なにもよくわからないのですが皆さんに教えて頂きながら続けていきたいと思っています。己斐（こい）という名前は、珍しいのですぐに覚えてもらえると思います！私も皆さんのお名前と顔を一日も早く覚えていけるように頑張ります。

[己斐幸恵]

☆今年、定年退職となったことをきっかけに、より自然に親しもうと考え、グリーンボランティアに加えていただきました。あわせて、山歩きも始めました。家内と一緒に、小さいながらも畑で野菜も作っています。幅広く自然との向き合い方を学んでいきたいと思っていますので、ご指導をお願いします。

[重本太郎]



☆昨年10月に原村に移住して来ました。今まで神奈川県に住んでいたため、この冬の寒さに驚きました。でも、春になって、美しい花々と芽を吹いたばかりの木々に毎日うっとり!! お庭仕事、大好きです。

[坪井勝江]

## ♣♣♣ お知らせ ♣♣♣

春のバザーを行います。

5月31日(火) 13:00～ 花束作り  
花束に使う切り花等あれば、お持ちください。

6月1日(水) 10:30～12:30 バザー  
ボランティアメンバーは9:30に集合

\*手作り品や雑貨を出品する方は5月25日(水)までにお持ちください。